

曹植「責躬詩」通釈

- 01 於穆顯考 時惟武皇 ああ、うるわしき父なる高祖、それはすなわち武皇帝。
- 02 受命于天 寧濟四方 天より命を受けて、天下四方を安らかに平定された。
- 03 朱旗所扞 九土披攘 漢王朝の朱色の旗が通過したところ、中国全土がなびいてへりくだった。
- 04 玄化滂流 荒服来王 奥深い道に基づく教化があまねく行きわたり、最も遠い異域の人々も帰順してきた。
- 05 超商越周 与唐比蹤 魏王は、商や周の王朝をも凌ぎ、その足跡は堯に並ぶ。
- 06 篤生我皇 奕世載聰 天の篤い祝福を受けて我が皇が誕生し、父子二代にわたって聡明でいらっしゃる。
- 07 武則肅烈 文則時雍 武の方面では厳肅であり、文の方面では民たちに和平がもたらされた。
- 08 受禪于漢 君臨万邦 かくして、魏は漢王朝から禪譲を受け、万国に君臨することとなった。
- 09 万邦既化 率由旧則 万の国々が十分に教化されると、古くからの典範に則って、
- 10 広命懿親 以藩王国 広く骨肉の弟たちに命じて、魏王朝の藩としての役割を担うよう指示された。
- 11 帝曰爾侯 君茲青土 皇帝陛下はおっしゃった、「そなた臨淄侯よ、この青州の土地に君主たれ」と。
- 12 奄有海濱 方周于魯 広く海濱一帯を保有することとなり、これは周王朝が周公旦の長子を魯に封じたのに匹敵する。
- 13 車服有輝 旗章有叙 諸侯に下賜された車や衣服は輝きわたり、各地位を示す旗印は整然と並んでいる。
- 14 濟濟雋乂 我弼我輔 ずらりと居並んだ、才徳兼備の人士たちは、我が君の片腕として輔佐に当たるのだ。
- 15 伊余小子 恃寵驕盈 ああ、わたくしめは、お上に目をかけられているのをよいことに驕り高ぶり、
- 16 拳挂時綱 動乱国経 その振る舞いは、どうかすると、世間の掟に抵触し、国の規範を乱した。
- 17 作藩作屏 先軌是隳 王朝の籬として防備の任に当たるべきなのに、先人の規範を台無しにしてしまい、
- 18 傲我皇使 犯我朝儀 我が皇の使者に傲慢な態度を取り、我が朝廷の規律を犯した。
- 19 国有典刑 我削我黜 国家には典拠とすべき刑法があつて、これによりわが封土は削られ、わが爵位は落とされることとなった。
- 20 将寘于理 元兇是率 今これから獄吏に引き渡され、大罪を犯した自分が指導されることとなったとき。
- 21 明明天子 時惟篤類 聡明なる天子は、身内の者に手厚く対処しようと思われた。
- 22 不忍我刑 暴之朝肆 わたくしを処罰して、その身を朝廷や市場に晒すには忍びなかったのである。
- 23 違彼執憲 哀予小臣 天子はかの司法官の意向に背いて、わたくしめを哀れんでくださった。
- 24 改封兗邑 于河之濱 そして、封土を兗州の町（鄆城）に改め、黄河のほとりに赴かせることとなった。
- 25 股肱弗置 有君無臣 だが、輔佐してくれる大臣も置かれず、主君はいても臣下はいない。
- 26 荒淫之闕 誰弼余身 荒んだ無軌道きわまりない過ちを犯しても、誰がわが身を矯め直してくれようか。
- 27 愴愴僕夫 于彼冀方 ぽつんとひとりの御者を連れて、かの冀方（魏の都・洛陽）へと赴いた。
- 28 嗟余小子 乃罹斯殃 ああ、わたくしめは、かくしてこの禍に遭遇したのである。
- 29 赫赫天子 恩不遺物 明々と輝ける徳を有する天子、その恩沢は万物に対して遺漏がない。
- 30 冠我玄冕 要我朱紱 わたくしに黒い冠冕をかぶらせ、わたくしの腰に朱色の組み紐を佩びさせた。

- 31 光光大使 我榮我華 光り輝く大使がやってきて、わたくしに榮華が届けられた。
- 32 剖符授土 王爵是加 割り符を割いて封土を授与し、これに王の爵位が加えられたのである。
- 33 仰齒金璽 俯執聖策 仰いでは金印を授けられた諸侯に並び、目を伏せては聖皇から下された任命書を手にする。
- 34 皇恩過隆 祇承怵惕 皇帝からの恩沢は身に余るほど盛大で、謹んで承りながらも、畏れに打ち震える思いだった。
- 35 咨我小子 頑凶是嬰 ああ、わたくしめには、かたくなで凶悪な性質がまとわりついている。
- 36 逝慙陵墓 存愧闕庭 死んでは陵墓に眠る高祖に顔向けできず、生きては宮廷にいます陛下に恥じ入るばかりだ。
- 37 匪敢傲德 寔恩是恃 徳ある陛下に敢えて傲慢な態度を取ろうというのではない。ただひたすらにその御恩にすがりたいのである。
- 38 威靈改加 足以没齒 靈妙なる威力が改めて加えられるならば、その恩恵により、十分に一生を終えることができよう。
- 39 昊天罔極 生命不図 天の徳は果てしなく、それに報いようにも、人の命は予測ができない。
- 40 常懼顛沛 抱罪黃墟 躓いて倒れ、黄泉の国まで罪を抱えていくことになるのではないかと、いつも心配だ。
- 41 願蒙矢石 建旗東岳 できることならば、出兵して矢や石を身に受けてでも、魏の旗を東方の太山に打ち立てたい。
- 42 庶立毫釐 微功自贖 どうか、ほんのわずかでも手柄を上げて、ささやかな功績により自らの罪を贖わせてほしい。
- 43 危軀授命 知足免戾 身を危険にさらして命を投げ出し、身のほどをわきまえて落ち度のないよう勉めよう。
- 44 甘赴江湘 奮戈吳越 喜んで長江や湘水のほとりに赴き、戈を呉越の地に振り回す所存だ。
- 45 天啓其衷 得会京畿 天子がその胸襟を開いてくださったおかげで、都にてお会いできることとなった。
- 46 遲奉聖顔 如渴如飢 ご尊顔を拝する機会を待ちわびて、喉が渇き空腹に堪えかねんばかりの気持ちでいる。
- 47 心之云慕 愴矣其悲 心の底からお慕いし、胸の内は悲痛でいっぱいだ。
- 48 天高聽卑 皇肯照微 天は高きにあっても低き存在の声に耳を傾けるといふ。天子よ、どうかこの微賤な者に光を恵んでくださいますよう。